

<対象外農地の耕作者や近隣農家との連携に取り組む事例>

○近隣集落と農業生産の体制整備に取り組む

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	石川県金沢市二俣D協定 <small>かなざわしふたまた</small>			
協定面積 18.7ha	田(100%)	畑	草地	採草放牧地
	米			
交付金額 367万円	個人配分			35%
	共同取組活動 (65%)	水路・農道管理費		22%
		多面的機能増進活動費		2%
		役員手当		5%
		その他		36%
協定参加者	農業者31人、非農業者4人、法人1組織			開始:平成12年度

2. 制度取組の経緯

二俣集落は、医王山地区に位置する山間集落で、種子米の生産等水稻主体の農業が行われており、本制度に取り組むことで、地域の直売所である「みちづれ」の運営など、集落・農業生産の維持、継承を図ってきた。

一方、砂子坂集落はさらに富山県境近くに位置し、高齢化が著しく、管理道路がない延長5.4kmに及ぶ水路を有しているが、維持管理は容易ではなく、営農活動の継続に不安で本制度への取り組みは断念してきた。しかし、平成20年度より国の小規模・高齢化集落支援モデル事業を活用し、二俣D協定からの支援を受けた。これを機に集落間の交流が活発となり、第3期対策からは二俣Dの協定に砂子坂集落を組み入れることとなった。

3. 取組の内容

小規模・高齢化集落支援加算を受け、砂子坂集落への応援体制を確立し、営農できない農地が発生した場合は集落ぐるみで引き受ける体制としている。

また、二俣集落ではほ場整備を早期に完了させ、本交付金を活用して、次世代の農業後継者が継承しやすい農業の基盤整備を行うほか、担い手の確保として地域の建設業の農業参入を受け入れたり、他県の棚田地域を視察して先進的な生産、販売の技術情報の交流を行っている。都市住民との交流では、地域の魅力をPRするパンフレット作成するなどして、二俣及び周辺地域を活性化させている。



【砂子坂地区の農地の状況】



【共同作業（水路周辺の草刈り）】

[集落の将来像]

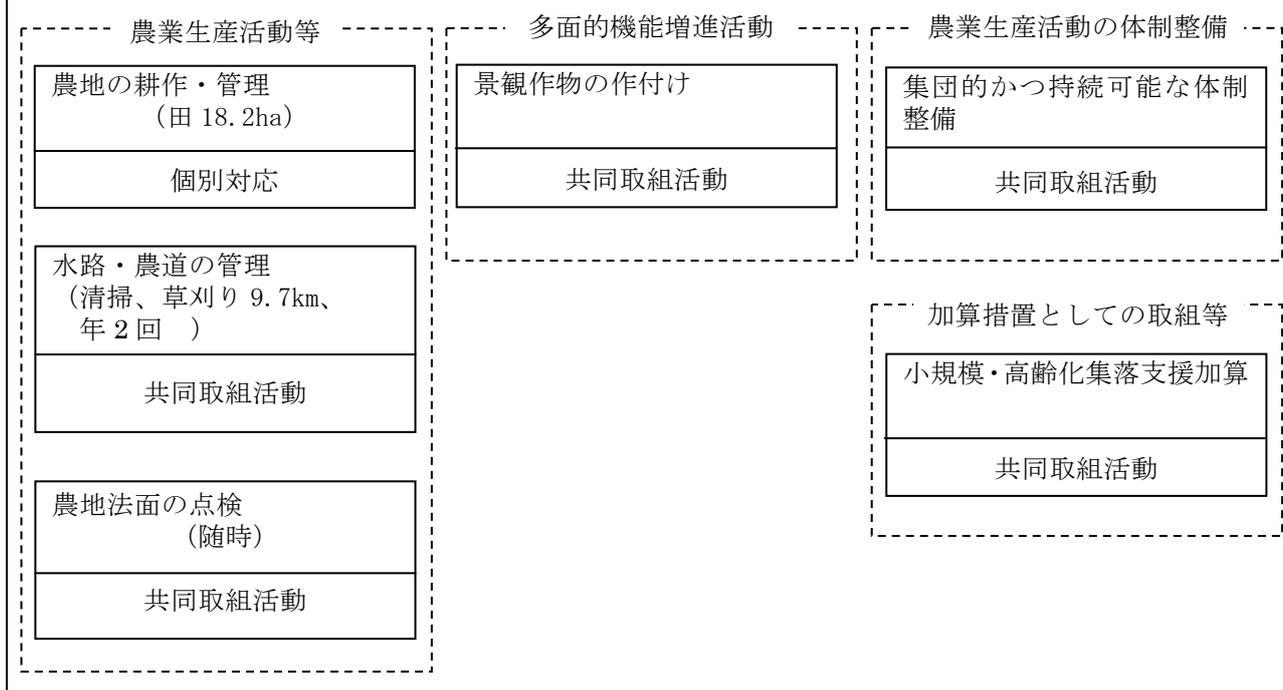
農業生産活動の継続及び多面的機能の持続的発揮に向け、集落間で連携し、持続的な営農体制を整備するとともに、農業生産活動の強化を図る。



[将来像を実現するための活動目標]

- 集落間の連携を強化する。
- 適正な農業生産活動及び水路・農道等の管理を継続する。
- 電気柵等の設置により、イノシシ等による農作物被害を防止する。

[活動内容]



4. 今後の課題等

二俣、砂子坂集落では、様々な取り組みを行っているが、喫緊の課題としては、年々増加しているイノシシ被害について、集落ぐるみによる対策を強化していく必要があると考えている。

また、砂子坂集落への支援については、砂子坂集落だけでは労働力不足等により十分に行うことのできなかつた農地、水路の保全等の集落活動を二俣集落との合同で実施し、耕作放棄地の発生防止に繋げている。

今後、さらに集落間の交流を通じて情報交換や住民の結びつきを強め、両集落の農地の保全、水路や農道等の地域資源の保全に努め、多面的機能の維持を図っていきたいと考えている。

[これまでの主な効果]

- 集落を基礎とした営農組織の育成（全作業）
 - ・ 農地集積・作業委託 9.9ha
- 小規模高齢化集落を支援する体制づくり（砂子坂集落草刈り等支援）
- 新たな地域農業者として地元建設業を受け入れ
- 他県の棚田地域の視察と定期的な交流
- 地域の直売所「みちづれ」の運営